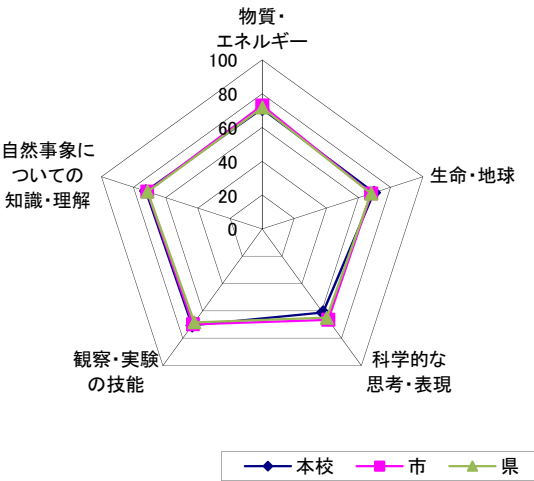


宇都宮市立陽南小学校第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	71.0	73.1	71.8
	生命・地球	69.6	67.9	67.8
観点	科学的な思考・表現	61.2	66.5	65.0
	観察・実験の技能	70.6	69.7	68.4
	自然事象についての知識・理解	72.4	71.6	71.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○正答率は市や県の平均をやや下回っている。しかし、豆電球の点灯の有無から、回路の様子を推測する問題(市の平均を5.5ポイント、県の平均を8.3ポイント上回っている)や、10円玉(銅)の性質を利用して仲間分けをし、その理由を説明する問題(市の平均を3.1ポイント、県の平均を5.2ポイント上回っている)の正答率は市や県の平均を上回っている。また、自然事象についての知識・理解の観点では正答率が高く、「ものと重さ」「風やゴムのはたらき」「光のせいしつ」「じしゃくの性質」では、90%以上の正答率であった。 ●正答率は市の平均を2.1ポイント、県の平均を0.8ポイント下回っている。特に、ソケットを使わない場面でも、豆電球に明かりをつけるために導線を正しく接続する問題(市の平均を28.7ポイント、県の平均を20.9ポイント下回っている)や、条件を変えたときのてんびんのつり合いを考える問題(市の平均を10.5ポイント、県の平均を11.3ポイント下回っている)等、科学的な思考・表現を必要とする問題の中には、市や県の平均正答率を大きく下回っているものがある。	・科学的な思考力や表現力を高めるために、課題解決的な学習に力を入れていく。その際、学習課題に対する予想や実験方法の検討に力を入れていく。 ・学習課題に対して予想する時間を取り、それを基に観察・実験を行う。観察・実験の興味だけに終わることのないように、得られた結果に基づいて、変化やそれに関わる要因を比較したり関連付けたりしながら思考するように指導する。 ・思考したり表現したりする時間を取り、ノートやワークシートに自分の言葉で考えを書くように指導する。
生命・地球	○正答率は市の平均を1.7ポイント、県の平均を1.8ポイント上回っている。特に、「身近なしぜんのかんさつ」の3問の正答率は、市の平均を5.6～13.2ポイント、県の平均を5.8～10.7ポイントと大きく上回っている。また、昆虫によって変態の仕方が異なることを答える問題の正答率も、市の平均を9.8ポイント、県の平均を7.5ポイントと、大きく上回っている。 ●身の回りの植物の種子と育った様子を答える問題では、市の平均を11.8ポイント、県の平均を10.6ポイント下回っている。また、昆虫と昆虫以外の虫を区別し、その理由を答える問題でも、市の平均を8.4ポイント、県の平均を8.5ポイント下回っている。	・自然と触れ合う体験を増やし、理科をより身近なものに感じられるようにする。 ・できるだけ実物を使うが、それができないときにも写真、映像などの視覚資料を使いながら学習を進めていく。 ・学習の課題に対して自分の考えをもつようにし、それをどのように表現するか考えさせる。 ・観察・実験の結果や考えたことを他の児童と伝え合う活動を通して、多様なものの見方・考え方に触れられるようにする。その際、自分の考えを他の児童にも分かりやすく表現することで、自分の考えを深めていくようにする。